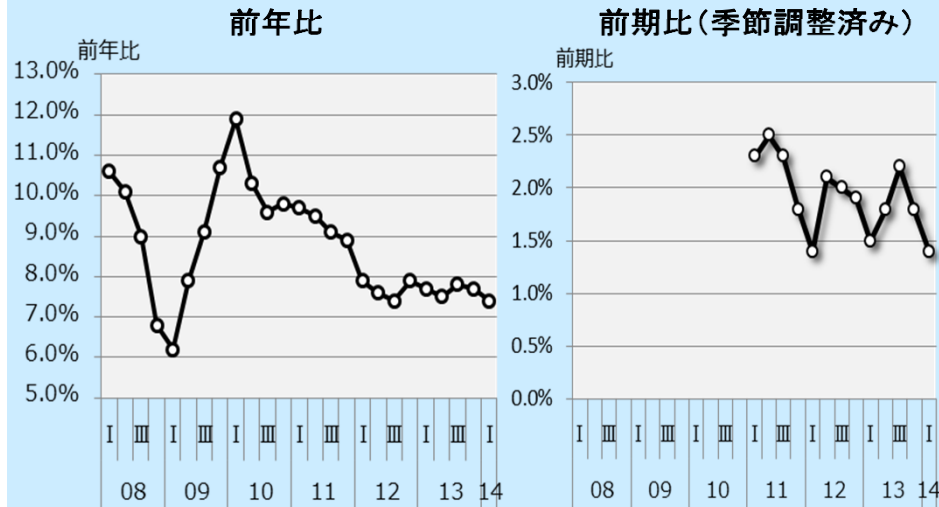


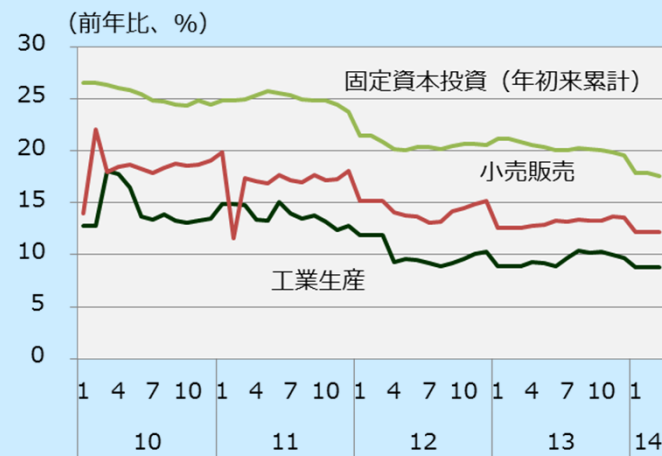
中国：GDP（2014年1-3月期）

MRI Daily Economic Points
April 17, 2014

実質GDP成長率(四半期)



固定資本投資、小売販売、工業生産（月次）



評価ポイント

今回の結果

- 中国国家统计局によると、14年1-3月期の中国の実質GDP(4/16発表)は、前年比+7.4%と二期連続で伸びが鈍化、12年7-9月期以来の低い伸びとなった。同統計局が公表している季節調整済み前期比も、前期比+1.4%と前期(13年10-12月期)の同+1.8%より低下。
- 14年1-3月期の小売販売(名目)は、前年比+12.0%と、インターネット販売など大衆消費が好調なものの、前年同期の同+12.4%を下回った。
- 固定資本投資(都市部、名目)は、政府の投資抑制方針もあり、14年1-3月期は前年比+17.6%と、前年同期(同+20.9%)から大幅鈍化となった。
- 工業生産(付加価値)は、輸出の低迷や内需の伸び鈍化もあり、14年1-3月期は前年比+8.7%と前年同期同+9.5%より鈍化。
- 輸出入は、輸出が13年前半の水増し輸出に対する取締り強化の影響などもあり、14年1-3月期は前年比▲3.4%の減少、輸入も国内の生産活動の鈍化から同+1.6%の小幅増にとどまった。

今後の見通し

- 中国政府は、3月の全人代において、14年の実質GDP成長率の目標を据え置き、前年比+7.5%前後と設定。ただし、雇用の確保という目標が満たされれば7.5%にこだわらないとの姿勢を示し、経済が安定化している状況下では+7.0%台前半までの景気減速は容認する可能性がある。
- 足もとの経済が弱含んでいる状況を踏まえ、政府は4月、規模は不明ながら、景気刺激策として、中西部への鉄道プロジェクトの建設促進と小規模企業向けの減税を発表した。短期的な効果を狙った大規模な景気刺激策よりも、中長期的な成長分野に絞った投資や、景気の微調整としての刺激策を模索していると考えられる。